

## トイレマークのジェンダーレス

島田 由紀子

最近、公共施設やデパート等のトイレマークにジェンダーレスの影響が見られるようになってきました。これまでのトイレマークは、男性は青（または黒）、女性は赤、さらに女性のシルエットはスカートの形で表されていました。ジェンダーレスを意識したトイレマークでは、性別による色の使い分けはせずに色は黒、シルエットは衣服の特徴ではない形で表されるようになっていきます。先日も、トイレの前で迷い、性差を刷り込まれた自分が悪いのかな？ と思ったのですが、みなさんはどう思いますか？

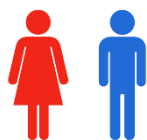


図1 これまでのトイレマークの例



図2 ジェンダーレスのトイレマークの例

日本では、トイレマークが男女によって色と形が異なっています。北神・菅・KIM・米田・宮本（2009）によるトイレマークに関する調査では、日本人はトイレマークの男女を識別するために色に頼っていることが報告されています。

日本のトイレマークとして長らく使われているように、男性と寒色系や黒、女性と暖色系のイメージの結びつきは強く、色だけではなく形にもジェンダーレスが取り入れられると、男女のトイレの識別が瞬時にできるようになるまでには時間がかかるような気がします。

すべてのトイレマークが、男女とも無彩色、または同一の色で表され、さらに両者の形が類似となった場合、あなたはどう思いますか？

- ① ジェンダーレスが尊重されたこととして評価する
- ② 男女の識別に迷ったり間違ったりするのは、トイレマークとして適しているとは言い難い
- ③ ジェンダーレスのトイレマークに戸惑うことのないよう、日頃からトレーニングする

### 引用文献

北神慎司・菅さやか・KIM Heejung・米田英嗣・宮本百合（2009）トイレのマークは色が重要？  
—トイレマークの認知におけるストローク様効果—,日本認知心理学会発表論文集 2009,19-19.

島田 由紀子 (シマダ ユキコ)  
國學院大學人間開発学部教授

## 今回のトピック “着物と四季”と色

今回は日本の着物と四季、そしてその色について、藍染めやぶどう染めといった草木染めを専門に研究されている名取初穂さんと、きものカラーコーディネーターの能口祥子さんに執筆をお願いしました。

### 和の色で味わう藍の四季

#### 名取 初穂

毎年、桜の花びらが風に舞うあたたかな春の日に、藍の種を蒔きます。一週間ほどで小さな芽を出すと、それからは日の光を浴びてすくすくと背丈が伸びていきます。水が大好きな藍は、梅雨時になるとぐんぐん成長し、あっという間に“染め頃”を迎えます。まずは、摘みたてのフレッシュな葉っぱを木づちでトントン…！葉の色や形、香りそのままを五感で味わう「たたき染め」から楽しみます。この時の染め色は『錆浅葱(さびあさぎ)』一やや渋みを帯びた浅い青緑。

やがて7月・8月の盛夏の頃にはすっかり葉も増えて色濃くなり、生葉をたくさん摘み取って直に染める「生葉染め」に挑戦します。生葉で染めた布の色は、『甕覗き(かめのぞき)』と呼ばれる爽やかな淡いブルーから『縹色(はなだいろ)』まで、多彩な和の伝統色を味わうことができます。また、葉を発酵させて得られる濃い藍色は『褐色(かちいろ)』と称し、茄子紺のような深い青で古来から“勝つ”のげん担ぎで日本人に好まれた藍の色名です。

秋には茎も葉もやや赤みを帯びて薄桃色の花を咲かせ、種となり、収穫の時を迎えます。やがて白い冬をじっと硝子ビンのなかで眠りながら翌春を待つ—これが小さな種の、四季の物語です。



プロフィール  
名取 初穂 (ナトリ ハツホ)  
國學院大學栃木短期大学准教授 (美術研究室) / 日本美術院院友  
専門分野：日本画 / 草木染め種から育て五感で味わう藍染めや、地元とちぎの名産物「おおひらぶどう団地」のぶどうを使ったぶどう染めなど

## 着物は美しい日本の歴史

能口 祥子

日本の伝統的な民族衣装である着物は、本来「着る物（衣服）」という意味で「着るもの」という言葉が詰まって「着物」になったといわれています。平安時代には小袖（袖幅がやや狭く袖丈の短い衣服）と呼ばれる日本独特の形になり、染色や織物の技術の発展により、多様性のある衣服へと変化します。萌黄色、紅梅色など、日本語の色名に多い植物からとられた名前もこの頃から登場していきます。そして四季の移ろいとともに、「襲の色目」として衣類の色合わせにも使われました。草木で染めた色は鮮やかであるほど褪めやすくその寿命も短いもので、色彩は移ろいやすいものの典型でした。この配色は、季節と年齢によって規定されていて、自然と向き合いながら暮らしてきた日本人の美意識のルーツとなっています。日本人の衣類は、明治時代を境に着物から洋服へと徐々に変わり、時代とともに美しさの観念も変化しますが、今もなお衣服に季節の色や柄を表現できるのは、着物ならではの楽しみでしょう。



プロフィール  
能口 祥子（ノグチ サチコ）  
きものカラーコーディネーター  
大阪工業大学非常勤講師

「色から広がる豊かな生活」がコンセプト。2015年より着物の色合わせに特化した『一般社団法人きものカラーコーディネーター協会（KICCA）』を設立。



## 会員リレーコラム

### 「赤と黒」

色弱者の中に赤と黒の見分けがつきにくい人がいます。文部科学省の旗振りで、カラーユニバーサルデザインについて就学者は教科書等に配慮がされています。しかし、社会に出た後はどうでしょう？例えば、

- ① 建築関係では、図面に赤を入れる、現場でコンクリートブロックに赤墨で印をつけることが慣例で、目立たなくわからない。
- ② 林業関係では、樹木に印をつける際ピンクにすることが多いので全く気づかない。
- ③ 赤と黒以外の話では、EXCELのグラフの多色使いで会議資料を見分けるのがつらい。

タイトルとは離れますが、③について色彩教育を行う機会の多い皆様にはぜひ工夫の方法を伝えてほしいと考えます。こんなことを気にかけて毎日暮らしています。



昆野 照美 (コンノ テルミ)  
カラーコーディネーター  
(北海道大学 文学院 博士後期課程在学中)

## 第2回『色いろサロン』を開催しました

2022年12月23日(金)に、第2回となる『色いろサロン』を開催しました。第2回は「子どもと色、教育と色—学校教育の内・外からのアプローチ」をテーマとし、総勢38名の方にご参加いただきました。

(登壇者) 吉本恵美麻さん 『色は子どもたちを喜びで満たしてくれる』  
(登壇者) 竹内とも子さん 『図画工作科の学習活動における色彩アレこれ』  
(司会) 宮野周さん

### <参加者からのご意見>

『今回の色いろサロンで子どもたちが表現を心から楽しめる環境構成や教師の関わり方のヒントを得られたように感じ、とても参考になるお話でした。』

『実物を見て描くことを大事にしているというお話が印象的で、対象をよく観察するとその中から様々な色が見つかることに気づき、私も身の回りのものを観察したくなりました。』

第3回は4月28日(金)20:00~21:00に開催予定です。詳細は次ページをご覧ください。たくさんのご参加、お待ちしております。

## オンラインセッション 『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第3回を開催いたします。今回はテーマを、『“着物と四季”と色』として、執筆者の方々に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方々へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2023年4月28日（金）20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・ Color Circle vol.03のトピック執筆者による発表

名取初穂さん

能口祥子さん

中島千絵さん（司会）

・ トピックに関する質疑応答

・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/F6TGxownYyiP7Cpy6>

**参加申込・参加費納入期限：2023年4月26日（水）**

⇒4月27日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※4月27日にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、

事務局までご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局

ohuchi.hiroko@jcri.jp（大内） または sasaki.mikuko@jcri.jp（佐々木）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（島田由紀子、手塚千尋、名取初穂、宮野周、熊谷佳子、大内啓子、佐々木三公子）

